

新型コロナウイルスワクチン接種の進捗状況等について

1 ワクチン接種者【1月8日（日）時点】

(1) 12歳以上

①「オミクロン株対応ワクチン」接種

区分	接種者	接種率 (2回終了者に対し)
接種終了	350,000	47.1%

【参考】

・初回（1・2回目）接種者

区分	接種者	接種率 (12歳以上)
1回以上	747,000	88.4%
2回終了	743,000	87.9%

・3回接種者

(従来型・オミクロン株対応型の計)

区分	接種者	接種率 (2回終了者に対し)
3回終了	622,000	83.7%

・4回接種者

(従来型・オミクロン株対応型の計)

区分	接種者	接種率 (従来ワクチンの 3回終了者に対し)
4回終了	422,000	69.6%

(3回接種者／年代別)

年代	接種率 (2回終了者に対し)
65歳以上	94.4%
60～64歳	93.5%
50～59歳	87.3%
40～49歳	77.5%
30～39歳	71.3%
20～29歳	66.1%
12～19歳	61.6%

・5回接種者

(オミクロン株対応型のみ)

区分	接種者	接種率 (従来ワクチンの 4回終了者に対し)
5回終了	182,000	67.4%

(2) 5～11歳

①初回（1・2回目）接種

区分	接種者	接種率 (5～11歳)
1回以上	10,300	18.7%
2回終了	9,900	18.0%

②追加（3回目）接種

区分	接種者	接種率 (2回終了者に対し)
3回終了	3,700	37.4%

(3) 生後6か月～4歳

①初回（1～3回目）接種

区分	接種者	接種率 (6か月～4歳)
1回以上	400	1.3%
2回以上	300	1.0%
3回終了	0	0.0%

2 現在のワクチン接種体制について（1・2月）

（1）一般（12歳以上）の接種

昨年末までに、ほぼ全ての方が接種時期を迎えられており、対象者には順次接種券を送付し、予約・接種が進んでいる。

このため、今月以降は接種対象者の減少が見込まれるが、現在の感染状況等も踏まえ、引き続き一定の規模で接種を実施する。

① 集団接種

【使用ワクチン：ファイザー社製（BA.4-5対応型）】

市内7会場（各区1会場）で実施

日時	実施会場（7会場）	
土 14～17時 日 10～13時	門司区	・旧大連航路上屋
	小倉北区	・リバーウォーク北九州地下1階 ★
	小倉南区	・小倉南生涯学習センター2階 【1/29(日)まで】
		・サニーサイドモール小倉2階 【2/4(土)から】
	若松区	・旧古前小学校
	八幡東区	・東田特設会場（ジ アウトレット北九州内）
	八幡西区	・コムシティ3階 ★
	戸畑区	・イオン戸畑ショッピングセンター 【1/29(日)まで2階、2/4(土)から1階で実施】
金 18～21時	小倉北区	・リバーウォーク北九州地下1階 ★
	八幡西区	・コムシティ3階 ★

※上記★印の2会場では、ファイザー社製（従来型）ワクチンにより、初回（1・2回目）接種も実施。

② 個別接種

【使用ワクチン：ファイザー社製（BA.4-5対応型）】

市内医療機関（約300機関）で、引き続き実施（2/12（日）で一旦終了）

（2）小児（5～11歳）及び乳幼児（生後6か月～4歳）の接種

個別接種（小児科を中心とした市内医療機関での接種）により、引き続き実施

3 今後（令和5年度以降）のワクチン接種について

（1）国の動向（R4.12.13付 厚生労働省事務連絡など）

国においては、令和4年12月13日に開催された厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会において、今後の新型コロナワクチン接種の在り方について検討を開始したところ。今後、以下のとおり進めていくこととしている。

① 検討の論点

まずはワクチンの有効性等から接種の目的を明確にし、その上で接種計画（対象者、回数、時期、ワクチンの種類等）の検討を行う。

② 考慮要素

①の検討に当たっては、特に以下の要素を考慮する。

- ・新型コロナウイルス感染症の疫学的状況及び感染症法上の位置付け
- ・ワクチンの安全性及び有効性の持続期間等
- ・次年度以降の諸外国における接種プログラムの方針

③ 検討の進め方

- ・②の考慮要素に関するエビデンスを国立感染症研究所で収集・整理し、
- ・当該整理を踏まえ、令和5年年初より厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会基本方針部会で接種目的、接種計画に係る技術的検討を行った上で、
- ・分科会で議論を行い、速やかに今後の接種の方向性に関する結論を得る。

④ 接種実施に当たっての留意事項

検討に当たっては、自治体の準備状況やワクチンの流通状況に十分配慮する。

（2）本市の対応

引き続き、国の動向等を十分注視しながら、市医師会等とも連携の上、準備を進めていく。